

公開実用 昭和63- 129512

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭63-129512

⑬ Int.Cl.⁴

A 45 D 33/00

識別記号

庁内整理番号

P-6671-3B

⑭ 公開 昭和63年(1988)8月24日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 気密性コンパクト容器

⑯ 実 願 昭62-23366

⑰ 出 願 昭62(1987)2月18日

⑱ 考 案 者 袴 田 征 一 神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂研
究所内

⑲ 出 願 人 株 式 会 社 資 生 堂 東京都中央区銀座7丁目5番5号

⑳ 代 理 人 弁 理 士 竹 内 裕

明 細 書

1. 考案の名称

気密性コンパクト容器

2. 実用新案登録請求の範囲

- (1) 化粧料収納部(2)を有する容器本体(1)と、
該容器本体(1)の上面全体を被覆する外蓋(9)
と、化粧料収納部(2)の上面を被覆し得る中
蓋(13)と、該中蓋(13)に弾性体(17)により上
下方向に可動に支持された可動蓋(14)と、該
可動蓋(14)の下面に定着され化粧料収納部(2)
の外周縁に気密に密着する弾性パッキン(18)
とからなり、外蓋(9)と中蓋(14)とを互に独
立して回動するように容器本体(1)に蝶着し
たことを特徴とする気密性コンパクト容器。

3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

この考案は、アイシャドー、アイライナー、ファン
デーション、おしろい等の固型粉末化粧料を取
納するコンパクト容器に関し、特に収納された化
粧料を気密に保持し得る気密性コンパクト容器に



関する。

(従来の技術)

従来、アイシャドー、アイライナー、ファンデーション、おしろい等の各種の固型粉末化粧料を収納するコンパクト容器であって、化粧料の揮発を防止したり、内部に水が入り込むのを防止する目的で本体と蓋体との間に弾性パッキンを介在させて気密性を保持するようにしたコンパクト容器は公知であり、例えば特開昭58-24125号公報、実開昭58-181305号公報、実開昭58-181306号公報等の開示されている。

特開昭58-24125号公報の開示のコンパクト容器は閉蓋時に枢支部から開閉端に向かって次第に押圧力が弾性パッキンに負荷され弾性パッキンが変形して来るのを防止するために、本体と蓋体との間に中蓋を設け、該中蓋を空隙を設けて蓋体に揺動自在に支持させ、閉蓋時に中蓋を揺動させて、弾性パッキンの全面が本体に均一に押付けられるようにしたものである。しかしながら、かかるコンパクト容器にあつては、蓋体を開放し



たとき、中蓋も同時に開放されるため、蓋の開閉毎に気密が解かれて、化粧料の上部空気が入れ換わるので、長期間の使用により化粧料から揮発成分が消失して固化して来るおそれがあった。

実開昭 5 8 - 1 8 1 3 0 5 号や実開昭 5 8 - 1 8 1 3 0 6 号公報に開示のものにあつては、蓋体とは独立して開閉される中蓋で化粧料収納部を閉塞するようにしたものであり、前記特開昭 5 8 - 2 4 1 2 5 号公報に開示のものの欠点を解消せんとしているが、これらはいずれも中蓋の中央部を蓋体で押圧して気密性を保持している為に、長時間の疲労や変形が生じ、又本体や蓋体の成型上の歪や寸法上のバラツキを十分に吸収し切れずに気密性の確保が不十分となってしまう等の欠点があった。

(考案が解決しようとする問題点)

この考案は、従来の気密性コンパクト容器にみられた欠点を解消し、閉蓋時に弾性パッキン全体を均一に押圧しつつ、化粧料収納部のみを蓋体の開閉とは独立して気密に閉蓋可能とすると共に、


樹脂の疲労や変形をもたらすことなく、且成型上の歪や寸法上のバラツキを吸収しつつ気密性の確保を可能にせんとするものである。

(問題点を解決するための手段)

上記問題点を解決するためにこの考案が採った手段は、化粧料収納部(2)を有する容器本体(1)と、該容器本体(1)の上面全体を被覆する外蓋(9)と、化粧料収納部(2)の上面を被覆し得る中蓋(13)と、該中蓋(13)に弾性体(17)により上下方向に可動に支持された可動蓋(14)と、該可動蓋(14)の下面に定着され化粧料収納部(2)の外周縁に気密に密着する弾性パッキン(18)とからなり、外蓋(9)と中蓋(14)とを互に独立して回動するように容器本体(1)に蝶着したことを特徴とする。

(作用)

閉蓋時には、気密保持板が弾性体で下方に押圧されて弾性パッキン全体が化粧料収納部の周縁に均一に密着し、気密性を確保する。開蓋時には、気密保持板を支持する中蓋が外蓋とは独立して開閉自在に蝶着されている為、外蓋の開放によって



は中蓋が開放されることがなく、したがって気密性は維持された状態にある。

(考案の効果)

この考案の気密性コンパクト容器によれば、閉蓋時に弾性パッキンの全体が均一に化粧料収納部の周縁に押圧されるため、弾性パッキンが変形して来るおそれがなくなると共に、外蓋とは独立して開閉可能な中蓋に弾性パッキンを有する気密保持板を支持し、化粧料収納部を密閉するようにしてあるので、外蓋内面に定着した鏡や化粧料収納部に隣接して収納されたパフ等のみを使用し化粧料の使用を必要としない場合には、化粧料収納部が開放されることがない為、化粧料上部の空気の入れ換えが少なくなり、長期間の使用によっても化粧料が変質して来るようなおそれがなくなる。又、中蓋と気密保持板とは弾性体を介して支持されており、外蓋からの押圧力が負荷されるおそれが無い為、樹脂の疲労や変形をもたらすおそれがなく、又各部の成型上の歪や寸法上のバラツキを吸収して確実なる気密性の確保が可能となる。



(実施例)

以下に図面を参照しつつ、この考案の好ましい実施例を説明する。図において(1)はコンパクト容器本体であり、化粧料収納部(2)と塗布具収納部(3)が隣接して形成される。化粧料収納部(2)は凹部(4)と該凹部(4)に嵌挿される中皿(5)とを備え、中皿(5)内に固型化された粉末化粧料等の化粧料(6)が収納され、フランジ(7)を凹部(4)の周縁に載置して支持している。

塗布具収納部(3)内にはバラやブラシ等の塗布具(8)が収納される。(9)は、外蓋であって、容器本体(1)の全面を被覆するに十分な形状と寸法を有し、本体(1)の一例に蝶番手段(10)により開閉自在に蝶着され、他例は適宜のロック手段(11)により、本体(1)に開閉自在にロックされる。外蓋(9)の内面には鏡(12)が定着される。

(13)は、好ましくは前記外蓋(9)と同軸に蝶番手段(10)に開閉自在に蝶着された中蓋であり、前記化粧料収納部(2)の上面を被覆するに十分な形状と寸法を有し、外蓋(9)とは独立して開閉自在



である。中蓋(13)の内面には、可動蓋(14)が支持される。可動蓋(14)はその中心に植立した可動軸(15)を中蓋(13)の中心孔(16)に遊挿して上下方向に可能にすると共に、上端を大径にして抜け止めを図っている。そして、中蓋(13)と可動蓋(14)の間には、両者を相反的に離間させるバネ等の弾性体(17)が介挿される。弾性体(17)によって、中蓋(13)と可動蓋(14)とが相反的に離間されるとき、両蓋(13)(14)との間に若干の隙間が形成され、閉蓋時における可動蓋(14)の傾動を許容する。可動蓋(14)の下面周縁には、化粧料収納部(2)の外周縁に密着する弾性パッキン(18)が定着される。可動蓋(14)は好ましくは弾性変形自在な材質、例えばポリプロピレン、ポリエチレン等のポリオレフィン系樹脂で形成される。

閉蓋のために、外蓋(9)を閉止し、ロックすると、外蓋(9)の内面が(13)に当接してこれを押し下げる。中蓋(13)の下降により可動蓋(14)が下降すると共に、弾性体(17)の弾撥力で弾性パッキン(18)が化粧料収納部(2)の外周縁に密着して、該



収納部(2)を気密に閉止する。可動蓋(14)は、弾性体(17)の弾力性により容器本体(1)に圧接されているため、外蓋(9)の閉止時の傾いた回動により、燐番部から徐々に押圧力が加わっても、可動蓋(14)の傾動が許容され、したがって弾性パッキン(18)は均一に収納部周縁に圧着されることとなり、偏奇した押圧力が加わるおそれがないと共に、本体(1)、外蓋(9)、中蓋(13)、可動蓋(14)等の各部の変形や寸法のバラツキも弾性体(17)の弾力により吸収することが出来、長期間の放置や量産による寸法誤差の発生にも対処することが出来る。又、塗布具(8)や鏡(12)の使用のために、外蓋(9)のみを開放する場合には、中蓋(13)が外蓋(9)とは独立しているため、可動蓋(14)による化粧品収納部(2)の閉止状態は維持され、したがって化粧品収納部(2)の開放による空気の入れ換えが行なわれるおそれがない。このように化粧品収納部(2)は化粧品(6)を使用する場合にのみ開放されるため、化粧品が揮発性成分を含んでいても長期に亘って安定した品質を保つことが出来るのである。



4. 図面の簡単な説明

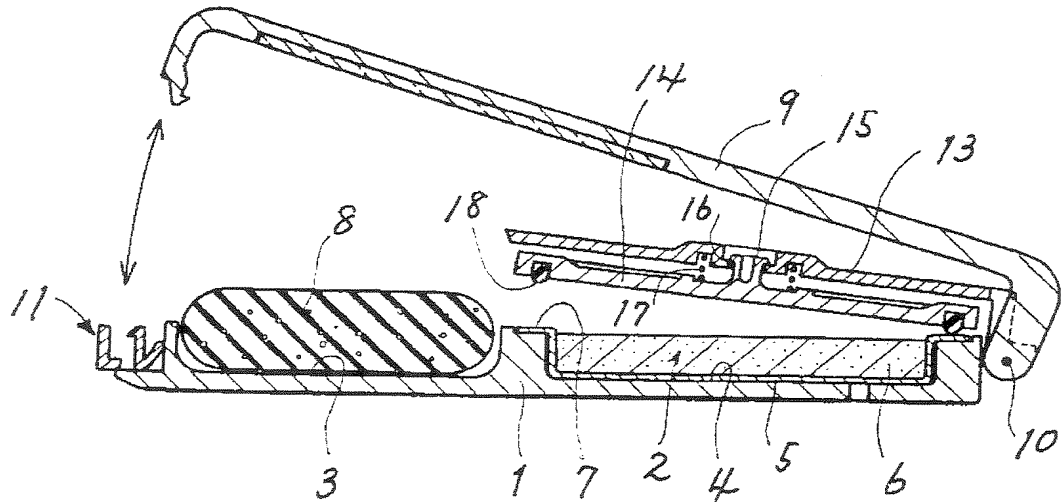
図面はこの考案の好ましい実施例を示すものであって、第1図は開蓋状態の断面図、第2図は閉蓋状態の断面図である。

- | | |
|--------------|---------------|
| (1) … 容器本体 | (2) … 化粧料収納部 |
| (3) … 塗布具収納部 | (4) … 凹部 |
| (5) … 中皿 | (6) … 化粧料 |
| (7) … フランジ | (8) … 塗布具 |
| (9) … 外蓋 | (10) … 蝶番手段 |
| (11) … ロック手段 | (12) … 鏡 |
| (13) … 中皿 | (14) … 可動蓋 |
| (15) … 可動軸 | (16) … 中心孔 |
| (17) … 弾性体 | (18) … 弾性パッキン |

実用新案登録出願人 株式会社 資 生 堂
代 理 人 弁 理 士 竹 内 裕



第 1 図



第 2 図

